

# NPO法人自然と緑

特定非営利活動法人 自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-18

大阪市教育会館 5 階

TEL : :06-6809-1700 FAX : :06-6809-2702

E-mail : [info-sm@shizen-midori.org](mailto:info-sm@shizen-midori.org)

URL : <https://shizen-midori.org>

NPO 法人自然と緑会報 2026 年 3 月 1 日発行第 147 号



## 前自然大学学長 只木良也先生を偲んで

NPO 法人自然と緑理事長 伊藤孝美

12 月 19 日、突然スマートフォンが鳴りました。

「只木先生が亡くなりました。」「えっ??.....。ほんまでっか？」

長年自然大学を育てて頂いた只木良也先生がお亡くなりになりました。

50 年以上も前のこと、NHK の教育テレビだったと思うが、「森林と人間」というタイトルだったと思うが、只木先生が連続講義をしていたのを見て、森林を対象にして研究していた私にとっては青天の霹靂でした。その先生が依田恭二初代学長の急逝により自然環境総論の講義を、自然大学 3 期 (1998) から担当されたのでした。その時から高齢のため (私は天皇陛下 (現上皇陛下) と同じ年やと言っておられた) に退かれた 26 期まで 23 年間に亘り自然大学の「公開講座：環境と人間」「森林の生態」の講義と、13 期から 25 期までの 12 年間学長を務めて頂きました。

その中で森林について次の内容を述べておられました。

二酸化炭素は地球温暖化の主役ですが、その二酸化炭素を光合成という作用で取り込み、呼吸と、落葉をはじめとする枯死物の分解を通じて放出して、大気中でのバランスを永年保ってきたのが地球上の植物でした。植物界を通じての二酸化炭素の出入りは莫大な量ですが、その植物界の中での大きな存在は森林でした。そして森林は炭素の収支だけでなく、その巨大な貯蔵庫としての意味も持っていました。IPCC に拠れば、陸上植物の生体中と、植物群落の土壌中に貯蔵されている炭素量はそれぞれ、人間社会の年間放出量の 40 年分、170 年分といいますが、陸地面積では 28% を占めるに過ぎない森林の植物体が持つ炭素量は全陸上植物の 8 割、土壌中炭素量は同じく 4 割に達しています。

この例からだけでも、森林は自然界の骨格を成すものであることが推察できると思います。その眼をわが国に転じると、わが国は森林が国土面積の 2/3 を占める森林国。したがって、自然・環境を主課題とするこの自然大学の講座では、森林の話題が常に登場します。これは、森林を中心に講座を組み立てたのではなく、自然界をベースに環境問題を論じようとするならば、いずれの道をたどっても、森林に至ることになるからなのです..... と。(次頁に続く)



芦生研究林、ミズメの樹の横で

### —147 号目次—

p 1～p 2	只木良也先生を偲んで	自然と緑理事長 伊藤孝美
p 2	第 31 期自然大学が始まります 他 お知らせ 2 件	自然と緑会報編集部 事務局
p 3～p 4	渡辺弘之の未解決事件簿 (29) 青森のキリストの墓、高知・横倉山の安徳天皇陵	自然大学学長 渡辺弘之
p 4	自然大学 30 周年記念シンポジウムのお知らせ	自然と緑企画グループ
p 5	さいとうさんの“話のタネ” (74) ヤマボウシとハナミズキ	前自然と緑理事長 齊藤兎三
p 6～p 9	29 期自然大学実習感想文「岬町長崎海岸実習—海の生態と環境」	第 29 期自然大学受講生
p 9	私が見た植物の不思議 (2) ピラカンサの赤い実編 寄付等の御礼	自然と緑理事 関澤友規子
p 10	活動報告／編集雑記	自然と緑会報編集部 自然と緑会報編集部

只木先生はお酒がお好きでした。森林管理局の4階で自然大学の講義が終わる頃になると、大阪環状線の北側にある飲み屋に連絡を入れ、20人前後で飲みに行きました。そこでは、自然だけでなくありとあらゆる話題で花を咲かせました。そしていつも私に対して「前で」という言葉を持ち出して、「伊藤は長野県人だから、前に、といえよとよところを、前でに……と『で』を付けて言うやろ。」と茶化していました。これは信州大学教授を長年努めておられたことから、長野県人の言い回しを知っていたからなのでした。

只木先生は落語がお好きでした。また、只木先生はカラオケが好きでした。このことを書き始めると頁数が足りなくなるのでやめにしますが、多種多才の先生でした。

長い間お世話になりました。謹んでご冥福をお祈り致します。  
どうぞごゆっくりとお休み下さい。

合 掌

### 第31期自然大学が始まります

自然大学では、専門の先生方とともに自然界の構造や働きを学びます。自然への認識を新たにし、野外へ出て、新しい仲間と五感を使って自然を満喫しましょう。

#### 自然と緑 正会員の皆様へお知らせ

昨今の事務所経費や事務所家賃等の値上げにより、経費面で事務所の運営が行き詰まっております。そのようなことから、今年6月の総会において会費の値上げを申請し受理されました。

正会員の皆様には大変心苦しいのですが、次の通り2026年4月より会費の値上げを行いますのでご了承を宜しく御願い申し上げます。

- ・正会員の年会費 5,000円 ⇒ 6,000円
- ・賛助会員、家族会員は変更ありません。

NPO法人 自然と緑 事務局

#### 賛助会員の特典

##### 2025年度賛助会員(個人)募集の結果 ……………自然と緑 事務局長 瀧原 勇

自然と緑の設立時から、各種団体を対象に賛助会員\*を募集してきましたが、このたび、自然と緑の財政逼迫の折から個人の「賛助会員」を募集したところ、下記に示す26名の応募がありました。心から感謝を申し上げます。応募して頂いた賛助会費は、自然と緑の事業実施に有効に活用させていただきます。

自然と緑の理事会では、賛助会員になって頂いた方に対し、その特典を検討してまいりましたが、「自然大学の室内講義について無料受講」が出来ることを確定いたしました。(2025年度については2026年3月31日まで有効。来年度以降は入会日から翌年3月31日まで有効) 受講は希望する講義の一週間前までに事務所に「受講申し込み」を行い、受講日には「賛助会員証」を持参し、自然大学事務局に提出して頂くこととなります。

来年度以降も「賛助会員」の募集は行う予定になっていますので、今後とも支援を宜しく御願い致します。

\*2025年度に賛助会員(個人)になって頂いた方(敬称略)

宮本智志、米澤淳子、臼田篤子、角田 泉、山下明美、大東 弘、高尾恭子、竹村佳子、森 常緑、山口治、江尻忠雄、竹熊房代、中野佳則、瀧原 勇、伊藤孝美、中山久子、上田 豪、高田七重、関澤友規子、竹内一郎、飛澤好範、小島和江、神崎トモ子(合同会社 Feels)、他匿名3名

## 渡辺弘之の未解決事件簿 (29) 青森のキリストの墓、高知・横倉山の安徳天皇陵

自然大学学長 渡辺弘之

### キリストの墓

世の中に信じられないことはいくつもあるが、これも笑ってしまった話だ。2012年10月、岩手・花巻空港から十和田湖を経て白神山地へ行ったときのことだ。十和田湖の東側を通過しているとき、バスガイドから、この近くにキリストの墓があると聞いた。今年は西暦2026年、この方、キリストは亡くなられて2026年になると思うのだが、どうやって来られたのか。21歳のとき来日、33歳でユダヤに戻り、ここで磔を逃れてシベリア経由で4年後に再び八戸に上陸、青森県三戸郡新郷村戸来に住み、ここで余生を送り106歳まで生きたという。磔になったのは弟のイスクリだったという。信じがたい詳しい経歴だ。

当時のこと、シルクロード経由でもたいへんなのに、道もないシベリア経由で来て、それも日本海側でなく太平洋岸の八戸に上陸しているとは、お話としてはおもしろい。地名の戸来(へらい)というの、ヘブライ語に由来するという。現在、ここには「キリストの里伝承館」があるという。まあ信じられない話だが、伝承館が作られるというのだから信じている人、行って見ようという人がいるのだろう。私たちの団体旅行の目的地は白神山地ブナ林なのだから、ここへ寄っている時間はなかったが、個人旅行なら、私のことだ、どんなところだろうと寄っているだろう。しかし、こんな信じられない話が信じられているとは驚きだ。

### 源義経がジンギスハーンになって鎌倉へ攻めてくる

源義経は文治5年(1189)、平泉・衣川で頼朝に命令された藤原泰衡軍に攻められ、ここで自刃したとされるが、実は密かに逃れて蝦夷へ渡り、そこでハンザンカムイという英雄になったとか。さらにその後、大陸韃靼を経てモンゴルへ行き、あのモンゴル帝国の初代皇帝ジンギスハーン(成吉思汗)になって、恨みを持つ鎌倉幕府を文永11年(1274)と弘安4年(1281)に襲うという壮大なロマン話である。いわゆる文永・弘安の役、蒙古の来襲である。

しかし、調べてみるとジンギスハーンは1162年に生まれ、1227年に死去したとされるので、実際に、九州まで来襲したのは、ジンギスハーンでなく、第5代皇帝のフビライハーンの時代である。衣川の戦後、85年もたっているのに、時間的には話は合わないようだ。この義経ジンギスハーン説には長崎のオランダ商館の医師として滞在していたシーボルトも大きく関わっていることを知って驚いた。ロマンあふれる壮大なお話だが、残念ながら判官最良がつくりだしたお話のようだ。義経には死んで欲しくなかったということだ。

### 高知・横倉山のヨコグラノキ

昭和34年(1959)、高知大学農学部林学科の同級生と高知・越智町の横倉山(標高776m)へ、当時この特産とされていたヨコグラノキ(*Berchemia berchemiaefolia* クロウメドキ科)を見に行った。必須科目の樹木実習も始まり、樹木の名を覚えている時代であった。ヨコグラノキも牧野富太郎博士によって、ここ横倉山で発見されたのだが、現在、その分布は本州(宮城県白石以南)、四国、九州、さらには中国、朝鮮にも広く分布することがわかっている。石灰岩地域に分布するようだが、どこも希少種とされているようだ。

ここは牧野富太郎の生家佐川にも近く、牧野富太郎もよく訪れ、ここでコオロギラン、ヨコグラツクバネ、アオテンナンショウ、コミヤマスマミレなども発見している。ヨコグラノキは一見、イソノキ、ネコノチチに似ている。京都府でも大江山や中丹・南丹地域に分布するようだ。



ヨコグラノキ

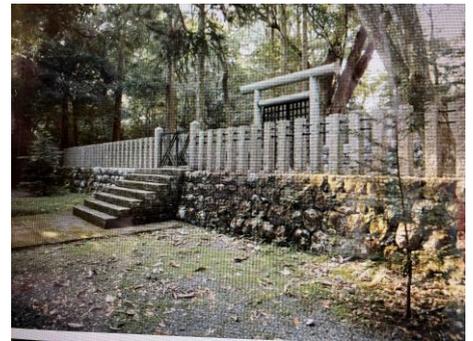
### 安徳天皇陵

実はこの横倉山で驚いたことは、この横倉山の山頂近くに安徳天皇陵があったことだ。安徳天皇とは第81代天皇、父高倉天皇と母・平清盛の娘徳子(建礼門院)の間に生まれ、3歳で即位、源平の戦いの中、寿永2年(1185)3月24日、壇の浦で満6歳で清盛の妻二位の尼に抱かれ入水されたという方である。この間、後白河天皇が三種の神器なく即位して、同時に2人の天皇が存在した時代である。京都・大原は私の住まいの近くなので、安徳天皇の母・建礼門院が隠棲された寂光院もよく訪ねたので、平家物語には関心があった。

安徳天皇は横倉山へは平知盛・田口成良らの武将88名に守られて来られ、ここに27軒の家屋を建て隠棲したが、正治2年(1200)に23歳で崩御されたとされる。越智の街近くで暮らせば食糧調達もでき、もっと健康に過ごせたのではと思うのだが、すべてが不便な山中での暮らしは健康にもよくなく、若くして亡くなら

れたのであろう。源氏に追われる身では街には住めなかったということだろう。調べてみると、高知にも香美市高板山、仁淀町にも安徳天皇隠棲地がある。

安徳天皇陵は壇の浦に近い下関・赤間神宮に隣接する阿弥陀寺陵だとされている。壇の浦で入水されたとき、甲冑を纏っていたら沈んだのであろうが、御陵が作られているということは、御遺体はあがったということであろう。この時、三種の神器の一つ神劔は見つからなかったとされているようだ。陵墓は明治まで阿弥陀寺により維持されてきたが、明治22(1887)年に安徳天皇陵として宮内庁管轄になったのである。



横倉山の安徳天皇陵

その安徳天皇陵が瀬戸内海から遠く離れた高知・横倉山にもあったのである。宮内庁により陵墓参考地とされているので、まったく歴史的にも価値はないと無視しているわけではないということだ。その後のことだが、調べてみると、安徳天皇陵は下関にあるものの、御陵参考地とされるのはこの高知・横倉山だけでなく、下関市西市御陵参考地、九州小倉隠徳庵、鳥取市凶益の石光、対馬厳原、熊本宇土など全国に20数ヶ所も宮内庁指定の御陵参考地がある。もちろん、明治以降の宮内庁指定御陵参考地であるが、まったく無視もできないとしての指定であろう。

さらには、宮内庁によって指定されていない伝・安徳天皇御陵地とされているところは徳島・三好、熊本・山都、さらには遠く鹿児島・三島村硫黄島にもある。義経と同様、壇の浦に沈む幼い天皇の悲劇を受け入れなかった。当時の平家方も何とか天皇を守りたかったのであろう。壇の浦で入水されたのは安徳天皇の身代わりで、それ以前の屋島の合戦の後、幼い安徳天皇を護り、阿波・祖谷地方、さらには土佐・横倉山地方へ逃れ、隠棲されたということだ。同様な伝説が各地に、それも遠くは鹿児島島の硫黄島や喜界島まで御陵地伝説が伝えられている。あるいはその一つは事実だったのかも知れないと思う。

私自身、大阪・能勢野間の大ケヤキを見に行っただけであるが、ここも戦乱の中逃れてきた安徳天皇が隠棲されたこととされ、来見山に御陵墓があることを知らなかった。源氏による平家の落ち武者・残党狩りは厳しかったようだ。徳島・祖谷のかずら橋も源氏の追討軍が来た時には橋を切って落とすためだったという。

### 平家落人伝説の里で暮らす

学生時代、徳島・東祖谷山村の治山事務所へ測量のアルバイトに3月1ヵ月、それも2回も行った。仕事は地滑り地帯の地形図作りであった。四国山脈の剣山・三嶺に近いところ、3月といっても雪が降ったし、日陰には何日も雪が残っていた。平家落人伝説の村であった。集落は水の得やすい谷川の下流でなく、水を得るにも不便な中腹にあった。何でこんな不便なところへ家を建てると思った。地滑り地域を避けていることも理由だが、ここも源氏が攻めてきても逃れる時間を得られるためだと聞いた。

ここにある阿佐家には平家の赤旗が現在も保存されているといわれていた。測量の最中、お昼には必ず火を焚いて湯を沸かし、近くにある生のチャの葉を入れたお茶を飲んだ。雪の日など、何度か阿佐家へお邪魔し、囲炉裏の傍で弁当を食べさせてもらった。測量は3人1組だ。2人は地元の若い作業員、2人はここへお邪魔することをちょっと渋った。私の弁当は治山事務所で作ってくれたもの、白米であった。作業員2人の自家製の弁当は黄色いヒエ飯だった。どんな味なのか、何回か私の弁当と換えてもらった。黄色く一見おいしそうに見えたが、ぱらぱらであった。その当時、ここでは日常はヒエ飯だったのである。

地滑り地域には家屋も耕作地もなく。福寿草がたくさん咲いていたことを覚えている。私が平家落人集落へ滞在した思い出である。壇の浦の戦には影武者をたて、幼い安徳天皇を横倉山へお連れした平家の公達のいたことは確かなことだと私には思える。全国に安徳天皇陵があることは安徳天皇の身代わりが何人もいたということだ。ご本人と身代わり、いずれも幼くしてのご苦労であった。戦とはいえ、幼い子供の悲しい出来事である。

## 自然大学 30 周年記念シンポジウムのお知らせ

☆2026年 7月5日(日)

\* 場所と時間＝大阪市立東成区民センター 14 時開演

自然大学 30 周年を記念しての講演会を予定しています。詳細は追ってお知らせします。

# さいとうさんの“話のタネ” (74) ヤマボウシとハナミズキ

前自然と緑理事長 齊藤 侑三

ハナミズキは一青窈(ひととよう)の歌「ハナミズキ」を知っている人もいるだろう。「ヤマボウシ」も同じミズキ科ミズキ属の落葉高木。

2025年4月大和郡山市内の自然観察に行くとヤマボウシの花が開いていた。2021年6月長谷寺に行くと薄赤色のヤマボウシが満開だった。同じ奈良県で山間部の長谷寺と平野部の大和郡山市内で咲くのが2ヶ月も違うのは異常気象のせいだろうか。



先が尖ったハナミズキ



紅底白ハナミズキ



ハナミズキの花



ハナミズキの青い実



赤い実と紅葉

ヤマボウシの花弁に見えるのは総苞片で先は尖っているが、ハナミズキは凹んでいると見分け方を説明されるが、ハナミズキも尖っているが先が釣り針型に裏側に曲がっているので凹んでいるように見える。

中国、朝鮮、日本の本州から琉球列島に分布し、葉が出たあとに枝先に開花するので目立たない。花は白色が普通だが、薄桃色のベニバナヤマボウシ、帯緑色ヤマボウシの常緑ヤマボウシの一種。最近庭木に常緑ヤマボウシ「ガビサンヤマボウシ」「ヒマラヤマボウシ」が植えてある。葉に白覆輪が入るシルバー・ウルフもある。

1912年、ソメイヨシノ2000本ほか11種のサクラがアメリカに贈られ、ワシントンのポトマック川岸に植えられた。そのサクラのお礼として1915年60本のハナミズキ(別称・アメリカヤマボウシ)が贈られた。「返礼の木」「私の思いを受けてください」の花言葉の由来となっている。贈られた苗木が現存するのは東京都立園芸高等学校の1本のみ。ハナミズキの寿命は約80年と言われるが、2025年も開花、2026年で114年目を迎える。寿命が延びているのかも。

花色は白花系と紅花系に大別され、約100種以上の品種があり、葉が出る前に白花を付ける。赤色や桃色の美しい品種もある。総苞片の中心にある、いがぐり頭のところが花だ。花の見ごろは4月から5月ころ。開花前には苞は包まれたようになっている。花から芽をだしたのもあった。花が出た後から総苞片が伸びてくる。葉は楕円形で秋に紅葉する。幹はカキノキのように編み目状になっている。

大阪城公園の植木市で「葉に黄覆輪の入った桃花」小石川植物園に「シダレハナミズキ」があった。一番よく見るのは総苞片が桃色で基部が白い「ジュニア・ミス」で、花付きがよい品種だ。ヤマボウシの実は1つでボコボコして甘く食用にされるが、ハナミズキはツルツルとして数個が集まっている。赤くてたべられそうだが腹痛や体調不良を起こす、葉の表面に刺激物質があるので、触れると皮膚炎を起こす人もいる。ハナミズキをよく観察すると色々な現象に出会える。今年の春はハナミズキの花をじっくり観察してみませんか？



ベニバナハナミズキ



シロバナハナミズキ



ジュニア・ミス



花の後、苞が伸びる



黄色ハナミズキ



花から芽が

## ≪1班≫

○「いっぱい採るぞ」と意気込んで、箱眼鏡、タマ、ザルなど小道具を色々持って行きました。しかし、磯はアオサがはびこっていて凄く滑り、採集できたのはウスヒザラガイ、ヨメガカサガイ、バフンウニ、海藻類など定着しているものばかりでした。同定会で鍋島先生からヒジキを教えてくださいました。いつも食べているお馴染みのヒジキの姿とは色も形態もまるで違うのでびっくりしました。また、ワカメの生長点が先端ではなくメカブのすぐ上にあるということにも驚きました。日本人は海藻を食べるだけではなく、接着糊、建築資材、焼き物の釉薬など世界一上手に生活に取り入れていると聞いてなんだかうれしくなりました。今まで海藻にはあまり興味がなかったのですが。帰宅後海藻について調べてみると、成長過程が多様で不思議で面白い謎の生物だと思いました。海藻同定のあと、アメフラシの貝殻を取り出してくれました。その時、よく見ると線がいくつかあったので成長線かなと思いました。でも、寿命が1-2年とのことなので違うなと思いました。汽水池ではハマサジを見ることができ良かったです。1株咲いていました。



開講式の様子

**【鍋島コメント】**2023年から2025年まで暑い夏が連続し、どこでも海藻や動物の種数が激減しています。今年、串本から大阪まで磯を見てきました。串本では引き潮時に水から干上がる潮間帯のヒジキが激減し、5年ほど前から地元姫漁協が採集を停止しています。多くの海藻は夏に顕微鏡でしか見られないような小さな体で、苦手な温度が高い夏を越すのですが、夏の高温に耐えられずに数が減ったようです。アメフラシの貝殻の輪状模様は年輪ではありませんが、成長線です。餌の海藻をたくさん食べると、早く成長するので輪の幅が広くなり、輪状の模様ができます。

## ≪2班≫

○朝、少し肌寒いかと思いましたが一日中天候に恵まれた現地実習でした。磯の匂いの中の採集は、滑って転げないようにから始まりました。足元に注意していると動きが鈍く、活発に採取している方が羨ましかったのですが「採取少なくとも大丈夫、他の方の採取した説明が聞けるから」のリーダーの声がけに安心しました。ようやく潮だまりで小さなヤドカリ、小さなウニ他採取でき何とか頑張れました。鍋島先生の説明はとても丁寧で採取解体後にすぐに回してくださり、手にとり見ることができました。印象に残っているのはアメフラシの解体です。ナマコを調理した時のことを思い出しました。ハマダイコン、ツルナを食したり、一億年前の砂岩に手に触れたり、ヤツデヒトデの威嚇するときに固まっている実物をみたりと、この年齢でたくさんの貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

**【鍋島コメント】**海岸の岩の上にはいろいろな海藻の芽や小さな体が付いていて、水で濡れるとヌルヌルし、滑りやすいので注意が必要です。漁業法の改正で海の生物を観察するのがやり難くなってきました。

○天気にも恵まれて、磯の生き物の観察も蟹の話も砂岩や植物の話も面白かったです。栄養が足りなくても脱皮して、サイズダウンする話は驚きでした。何故脱皮するのか(笑)体内の貝殻の痕跡は面白かったです。アメフラシの解剖はちょっと衝撃過ぎて、夢に出て来そうでした。最初に見つけた20センチ四方のちっぽけな潮溜まりに、ヒザラガイ、ベリルイソギンチャク、フジツボ、カメノテ、ヨメガカサ(名前の由来が面白いデス)イシダタミガイ、ハゼの卵、小さな蟹、海藻多種……。そこだけで1つの生態プールが出来上がって居て、驚きました。肉食の貝と草食の貝の見分け方も面白かったです。昔海岸で貝を拾ったら、急に足を伸ばして来て、刺そうとして来て慌てて捨てた事が有るのですが、あれも肉食の貝だったのでしょうか。ハマダイコンとツルナの話と味見、面白かったです。

**【鍋島コメント】**その貝はマガキガイという巻貝だと思います。冬に食べる二枚貝の牡蠣かきではありません。貝殻の蓋がギザギザの山賊の刀のような形で、それで海底を搔いて動きます。貝の入り口からギザギザの蓋を出して動くので、チャンバラガイとも言います。高知に行くと、茹でられたチャンバラガイが「さはち料理」に載ってきます。美味しいので高知や南紀に行ったときには、ぜひ味わってください。食べることも生物を勉強することにつながります。沖縄では少し形の似たイモガイは毒のある銛状の歯舌を打ち込むので危険

なものもあります。

○磯観察、お世話になりました。学生時代以来の磯観察にテンションが上がりました。ウミウシは見られなくて残念でしたが、長靴を履いていった甲斐がありました！海岸へ向かう道すがら知らない花の名前を聞けなかったのが心残りです。先生方のお話も一生懸命メモしましたが、なかなか書ききれなくて……。知らない事がいろいろあって学びが楽しいです。(記憶にどれだけ残るか怪しいですが)あと1つ、**事前に頂いていたテキスト表紙の写真、右中に「正体は？当日」と書かれていたものは何だったんでしょうか？私、聞き逃してしまったのかも。お教え下さい。**

【回答】正体は後ろページの写真、軟体動物マツバガイの歯舌（しぜつ）の顕微鏡写真です。現地でも見ていただいた貝で、歯の並んだ紐は体の10倍以上も長く、小さなつめ状の歯が横に並び、鉄が含まれているので茶色く、ざらざらしていたものです。岩の上の藻類を齧り取るので、歯が丸くなり、オルファクターのように次の鋭い新しい歯が出てくるしかけです。



正体は？ 当日

正体は？（回答欄にあり）

○岬公園駅を下り、緑の美しさに驚かされました。そのすぐ向こうが海だそうです。大阪で唯一、自然海岸が残ったところだといえます。長崎海岸に着いて海洋生物を採取。鍋島先生はみたところ何の区別もつかない海藻類を「これはアオサ、これはフクロフノリ、これはヒジキ。」と正確な名前を伝え、それぞれがどのようにして発生したか、人間の生活にどのように使われるのか、あるいは食べられているか、を説明してくださいました。紙をくっつける糊が布をピンとさせる海藻の「フノリ」から来ていると、初めて知りました。ワカメと同じ褐藻類の仲間のホンダワラ科の「ウミトラノオ」といったユニークな名前の海藻のことも教えていただきました。

【鍋島コメント】長崎にはフクロフノリしか見られませんが、加太で60年ぶりにマフノリ、ハナフノリといった外海に生えるフノリの仲間が見つかりました。5年前には串本から広川町までしか生えていませんでしたが、温度が高くなったためか、海南から加太にも分布が広がりました。2025年にはハバノリも長崎に生えているのを発見し、外海の手藻がみられるようになりました。

○水生生物の採取という久しぶりの作業はとても楽しかったです。ただし、不安定な足場を歩くのは、少し怖さを感じました。こんな水辺でも、先生のご説明で、地球温暖化の影響が多々あるようで、驚きを感じました。尚、**アメフラシの解剖で、アメフラシは抵抗していないように見えたが、あのような生物は痛さとか恐怖を感じないのでしょうか？**

【回答】アメフラシが痛いと感じているのかどうかはわかりませんが、アメフラシの寿命は1年で、卵をうむと死んでしまいます。解剖した時に、卵巣がかなり小さくなっていましたので、すでに卵は産んだ後の個体で、観察した時期から間もなくして、死んでしまう個体でした。アメフラシは雌雄同体で体の中に卵と精子を持ちますが、自分で受精はできないので、他の個体から精子をもらいます。貝殻は外套膜という外側の皮でできた袋の中にあります。貝殻を取り出しても死ぬことはなく、また貝殻をつくります。アメフラシは海藻を食べます。食道から胃の入り口に咽頭歯（のどの歯）という黄色いプラスチック状の歯があるので、見てもらいましたが、ここまで解剖すると、自然に死ぬよりは早く死にます。しかし、その死体はエビやカニ、ゴカイ、肉食の巻き貝などが食べて、次の世代をつくるための栄養になります。みんなの勉強にもなるので、何も無駄にはなりません。

<<3班>>

○どの話も生物好きの自分にとって非常にためになり、アカテガニと牡蠣の性転換の話が特に印象深かったです。素晴らしい講義をありがとうございました。

【鍋島コメント】アカテガニは海から陸に生息域を広げましたが、繁殖するときにはまだ海が必要です。淡水のサワガニは大きな卵をうみ、卵の中が海の代わりをして、子ガニになってから生まれます。ニホンウナギも子供は故郷のグアム島近くの海底火山のすそ野に帰って産みます。産卵のため、親は日本から2600kmはなれた場所まで旅をします。

○鍋島先生のレクチャーは、アカテガニ観察から最終もカニで、様々なカニの生態を知る事ができました。磯の採集は童心にかえり、アメフラシの解剖に驚き、その後ツルナを食しアイスプラントによく似ている感想をもち、大根卸風味、えんどう豆のようなサヤを持つハマダイコン、特急サザン乗車、初めて尽くしでした。

【鍋島コメント】エビやカニは夜行性で、暗くなると石の下から出てきて、死んだ生物の体をたべる海の掃除屋さんです。石をおこすとその下にたくさんいます。からだに海藻をつけてカモフラージュするヨツハモガニなども、昼間は見つからないように海藻に紛れて生活しています。

○初めての實習で少し緊張していたのですが、天候にも恵まれて、楽しく学ぶ事が出来ました。鍋島先生のお話がとても分かりやすく、おもしろくてしっかり聴く事が出来ました。何故海の水がきれいに保てているのか、日本の先人達が海に住む生物を上手く活用してきたかを初めて知りました。この海岸がいつまでも自然を残した状態であって欲しいと願わずにはられません。子供達にもこの海岸の面白さ、良さを体験して欲しいと思いました。多くのことを教えて頂き有難う御座いました。

【鍋島コメント】大阪府では浅い場所を国や自治体がすべて埋めたててしまい、魚や生き物の子供が育つ場所が少なくなっています。自然観察ができる場所は子供たちに残してあげたいと思います。

○潮間帯で沢山の生物を観察できて、とても楽しかったです。普段よく食べるわかめも、あんな風に根茎葉が付いているのだと初めて知りました。大きなアメフラシは貝の仲間で、体内に薄い貝殻が残っていました。刺激すると体内から紫色の液体を出して敵から身を守るなど、知らないことだらけでした。のどの奥にある黄色い歯も、先生が取り出して見せて下さり感激です。ラーメンのような卵塊も見ることができました。ヤツヒトデは足が8本ありますが、千切れても再生すること。実際に、成長途中の短い足を見ることができました。素晴らしい生命力です。ヨツハモガニは、海藻を頭に付けてカモフラージュしていました。かわいいですね。ヒラトゲガニはカニではなく、貝殻を背負うのを止めたヤドカリの仲間ということを知りました。全身トゲトゲだらけでした。鍋島先生は、本当に海の生物について良く御存じで、話が次から次へと途切れず、貴重なお話を沢山聞くことができました。ありがとうございます。他にもツルナ（塩味）やハマダイコンの果実（大根おろしの味）を食べたりして、たくさんの経験をさせて頂きました。海は生命の源だということを実感した1日でした。

【鍋島コメント】エビ、ヤドカリ、カニは10本の足を持つ甲殻類で、エビからカニに進化して、その中間のヤドカリ類（貝殻に腹部を入れて隠す）にはエビ似た形のもの、カニに近い体（タラバガニ、ヒラトゲガニ）をしたものがあり、うまく変化していたと感心します。

○大阪にこんな自然海岸があることを初めて知りました。また、もうわずかしかなかったということも驚きでした。磯での採集は、何か変わったものを見つけるぞ！と思っていましたが、なかなか見つけられず……。皆さんが集めた生物の種類が多さに驚きました。海藻ひとつとっても、よく見れば色々な形があり全然違っておもしろい。マツバ貝の歯を触ったり、アメフラシが薄い貝殻や硬い歯を持っていることを初めて知り、実際に触れる貴重な体験ができました。他にもツルナをかじって何故塩分を含んでいるのかを考えたり、ハマダイコンが食べられることも知り楽しかったです。

【鍋島コメント】藻は紙に貼り付けて標本にします。なかなかきれいな形のものも多く、最近はこれで造形し、海藻押し葉アートを楽しんでいる人もいます。やってみると楽しいですよ。

○鍋島先生から繰り出される軽妙な解説に聞き入っている間にも、自分なりの質問も頭に浮かんでくるのですが言葉を考えている間にタイミングを逸してしまって何を訊こうとしたのか忘れてしまっている事がちょっと悔しくもありました。どの解説も興味深いものでしたがアメフラシの解剖、貝の歯舌、フグ毒がビブリオからの食物連鎖によって獲得したものである事などが特に印象に残っています。

【鍋島コメント】海に行くと観察しているうちに、徐々に知っている生物が増えてきます。そうして海の中に知り合いが増えていきます。知っているものが増えると、ますます海が楽しい場所になってきます。博物館の磯観察会などいろいろな機会を見つけて、また参加してください。

海の観察のきっかけに大阪府岬町長崎海岸に行きましたが、これは始まりです。

観察する場所が変わると、見つかる生物も大きく変わります。和歌山の白



採取された海浜植物



採取した生物の同定と説明



和泉層群岩石の説明

浜温泉に行ったついでに、京大の水族館を見て、円月島横の瀬戸の海岸に出ると、大阪湾の海岸は海藻や生き物の量が多いことに気が付きます。栄養の乏しい黒潮が南の生物を運んでくるので、よく探すと種類は多いのですが、その場で大阪湾以上に海藻などのたくさんの生物が出てくることはありません。しかし、大阪湾にはいない初めて見る種類がすぐに見つかります。

観察に行ったら、その場所の風景、生活している場所の写真、見つけた生物の住んでいる写真、生物の上・横・下からの写真を撮っておきましょう。それと観察した時に気づいたことを場所、日時（時間から満潮干潮の状態もわかる）書いておきましょう。写真から名前が解る可能性が高くなり、次来たときに、以前とどれだけ変化したかが解ります。温暖化で生物が大きく変わっていくことが実感できると思います。また、貴重な記録になります。 以上  
鍋島靖信 2025.9.6



## 私が見た植物の不思議 (2) ピラカンサの赤い実

自然と緑理事 関澤友規子

色々な「赤い実」が目立つ秋から冬。あの実は「鳥等に食べてもらう」→「糞として蒔いてもらう」→「新たな場所で発芽」という流れが多いかなと思います。その為、鳥等の目に留まるように「赤」で「ここにあるよ」と。

ところで今回の不思議はバラ科のピラカンサ。日本名トキワサンザシ。秋から時には3月頃まで赤い実が残っていたりしますね。今回、近所で探すと…11月20日の見事な赤い実(写真①)。年を越してもそのまま、立春も明日の2月3日でもまだ(写真②)。同日、オレンジ色っぽくなっている部分もあり、また誰が食べたのか？地面に少し赤い実が落ちてもある。枝も重いだろうし、何でこんなに長い間？と不思議でした。要は他の植物と競合しないように「完熟」の時期をずらしているのかなと思っていたところ、じつはピラカンサの秋の実には種に青酸系の毒があり、冬の寒さでその毒が徐々に分解されて果肉も「完熟」となるので、鳥も冬の終わりや春頃に食べる説があるのを知りました。ならば「完熟」に「時差」があるにも色々な背景があるのですね、面白いです。そんなで、お近くにピラカンサがあれば、是非「いつまでである？」「誰が食べる？」と見てみて下さい。また12月半ばに同じバラ科のカマツカの実を初めて食べましたが、とても甘かったです(写真③)。その後、カマツカの実は見かけませんが、あの完熟に至る経緯は？と思いつつ。



① 2025年11月20日



② 2026年2月3日



③ 2025年12月14日

### 【寄付等の御礼】

いつもありがとうございます

<切手、ハガキ、現金など>

1/8 切手 石井道子 様

1/8 寄付 松村秀明 様

ご寄付は下記までお願いします

ゆうちょ銀行口座名：

特定非営利活動法人 自然と緑

口座記号： 00900-7

口座番号： 150942

振込用紙の通信欄に「寄付」と明記願います。



## 自然と緑の活動報告 2025年12月～2026年2月

- ◇12/ 7(日) 第30期自然大学 室内講義 …………… 36人  
「森林動物等」
- ◇12/11(木) 12月期理事会 …………… 18人
- ◇12/13(土) 自然と緑の自然観察会 …………… 21人  
「滝坂の道～春日山遊歩道」
- ◇12/13(土) 斑鳩町学童クラフト工作 …………… 36人
- ◇12/14(日) ステップアップ講座 野外実習 …………… 23人  
「野鳥観察 山田池公園」
- ◇12/16(火) 大阪経済法科大学 里山整備 …………… 8人
- ◇12/20(土) 地学的むかし散歩 …………… 22人  
「第16回 今城塚古墳と埴輪」
- ◇12/21(日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森 …………… 3人  
「炭焼き活動」
- ◇1/ 8(木) 1月期理事会 …………… 15人
- ◇1/12(月・祝) 斑鳩町 里山整備 …………… 8人
- ◇1/12(月・祝) 河川探訪自然観察会 …………… 24人  
「第7回 鴨川」
- ◇1/17(土) 自然と緑の自然観察会 …………… 24人  
「宝ヶ池～上賀茂神社」
- ◇1/18(日) 第30期自然大学野外実習野外実習 …………… 30人  
「野鳥観察 山田池公園」
- ◇1/20(火) 大阪経済法科大学 里山整備 …………… 10人
- ◇1/21(水) クラフト活動 …………… 3人  
「生涯学習作品展用作品作り」
- ◇2/ 1(日) 地学的むかし散歩 …………… 27人  
「第17回 天満界限」
- ◇2/ 7(土) 斑鳩町 里山整備 …………… 12人
- ◇2/ 8(日) ステップアップ講座野外実習 …………… 17人  
「大阪公立大学附属植物園」

### ———会員募集のお知らせ———

「NPO 法人自然と緑」では随時、会員を募集しております。ご友人、ご親戚を是非お誘い下さい。ご入会・更新は上記 QR コードをご利用下さい。

「NPO 法人自然と緑」ホームページ



### ——ホームページをご活用下さい——

上記 QR コードをスマホで読み取ると「NPO 法人自然と緑」のホームページがご覧いただけます。最新の活動の様子も写真で紹介しています。

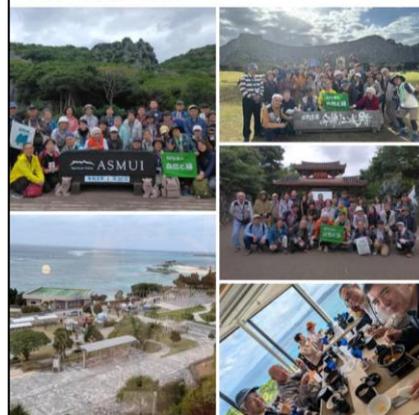


### NPO法人 自然と緑

☆自然大学・ステップアップ講座 沖縄卒業旅行

1月28日-31日、参加者36名による4日間の沖縄旅行

気温一桁の伊丹空港から、沖縄では20℃前後！亜熱帯の空気を存分に味わい、マングローブや大きなガジュマルに大盛り上がり。勉強も宴会も充実した旅でした。



### ★編集雑記

3月は「弥生(やよい)」とも呼ばれ、草木がいよいよ生い茂る月という意味があります。その他、「啓蟄」、「三寒四温」なども3月を連想します。

3月に咲く代表的な花は

「桜」代表的なソメイヨシノは3月下旬から4月上旬に咲き始めます。「桃」本来の開花時期は3月後半から4月頃です。日当たりの良い場所を好みます。「チューリップ」赤、ピンク、白、黄などの色があり、3月から5月上旬に開花します。「菜の花」3月から4月に黄色い花を咲かせた菜の花畑は春の訪れを感じます。3月に咲く花は、ラナンキユラス、ヒヤシンス、フリージア、ムスカリ、ネモフィラ、アネモネ、マーガレット、クリスマスローズ、ハナニラ、コブシがあります。3月もガーデニングを楽しめます。日当たりの良い場所で育てると、花つきが良くなります。鉢植えは、雨に当たらない場所に移動させることで、繊細な花を長く楽しめます。

3月の主な行事には、

ひな祭り(桃の節句3月3日)、国際女性デー(3月8日)、ホワイトデー(3月14日)、春分の日(今年は3月20日)、卒業式、お花見があります。皆さんご自身にたくさん思い出があると思います。自然と緑では、自然大学とステップアップ講座の修了式があります。卒業後も「自然と緑の会員」として永くご参加ください。(イチロー)